

カイロ『まるごと』導入プロジェクト

安富 康子

カイロ日本文化センター

1. はじめに

1.1 カイロの日本語学習者状況

国際的な観光地であるカイロにおける日本語学習者のこれまでの動機はガイドになりたい、日本企業で働きたいなどの実利を目的とした学習動機が多かった。しかし、ここ数年の選抜のために行っている面接、学習動機アンケートなどによると、日本のアニメを見て日本語、日本の文化に興味を持ち、日本語を学びたいという学習者が圧倒的に多くなってきている。近年カイロでも手軽に日本のドラマやアニメなどがネットを通して見られるようになったことも影響していると考えられる。年2回の選抜のための面接には、定員数の2倍近くの応募者があり、半数以上の学習希望者が日本のポップカルチャーから学習動機を得、面接時にアニメで覚えた単語を披露するという光景が増えてきている。しかし、カイロ市内には日本語の看板などは皆無に等しく、また、日本食レストランなども数件あるものの、学習者が手軽に利用できる状況ではなく、受講生が実際に日本語を学んでも、教室やカイロ日本文化センター（以下、カイロセンター）でのイベントを除き、教師以外の生きた日本語、日本文化に触れる機会は非常に少ないのが現状である。

1.2 カイロセンター日本語講座のこれまでの状況

本講座は成人向け講座で、1969年に大使館日本文化センター日本語講座として開催、運営されていた講座を、2007年からカイロセンター『ことばと文化』講座として引き継ぎスタートした。授業時間は1コマ2時間（15：50～17：50または18：00～20：00）で、開講コースは、以下の通りである。

コース（コースは年に2回開講）		期間（学習時間）	使用教材
初級	レベル1（週3コマ×18週）	3年（468時間）	『みんなの日本語Ⅰ』
	レベル2～6（週2コマ×18週）		『みんなの日本語Ⅱ』
中級	レベル7～9（週2コマ×16週）	1.5年（192時間）	『中級へ行こう』 『文化中級』 他
上級	レベル10（週2コマ×16週）	適宜開講	生教材など

1.3 問題点・課題

コースでは初級の段階で文字、文型中心の授業となっている。初期の段階で止めてしまう受講生が多く、レベル1修了時には6～7割、レベル6（初級）終了時には、1～2割しか残っていない。受講生が減っている原因をあらためて振り返ってみると、次のようなことが考えられる。

①文字学習への抵抗

レベル1では初日から約2週間で平仮名導入をしている。導入後『みんなの日本語Ⅰ』3課以降から

は、テキスト、板書においてローマ字使用を止めている。第一回目の筆記課末テスト（1課～3課）後から受講生が減り始めてくる事実からも文字学習の負担が挫折の一因と考えられる。

②学習の目的・動機の変化

入学申し込み時にとる「学習動機アンケート」の結果を見ると、数年前まで圧倒的であったガイド志望から、現在は、ポップカルチャー、日本文化への興味、留学のためなどに目的・動機が移行してきている。文型中心の授業内容と受講生のニーズの乖離が考えられる。

③会話コースの要望

カイロセンターの受講生からはどのレベルにおいても以前からもっと会話時間を増やしてほしいという声が出ていた。特に下のレベルでは、漢字はできなくても会話ができるようになりたいとの要望が強まってきている。

受講生の講座離れの原因から、受講生のニーズと現在のシラバスとのずれが明らかとなった。また、かねてより受講生の中には、テストはよくできるが、話せない受講生がおり、これは教師が受講生に教えるというスタイルが定着しているため、受講生が受け身になっていることが一因と考えられる。そのため教師の間からも、もっと受講生の要望にあった口頭コミュニケーション能力の向上を目指したコースシラバスに変更すべきだという声があがってきていた。そこで、これらの課題を解決する方法として、「JF 日本語教育スタンダード」（以下、JF スタンダード）に準拠して作成された『まるごと 日本のことばと文化』（以下、『まるごと』）使用のコース開講が考えられ、『まるごと』パイロットコースを実践することにした。理由は以下のとおりである。

◇『まるごと 入門』はローマ字ルビを使用して、学習者の文字への負担が少なくしてあるので、文字問題の改善が可能ではないかと考えた。

◇それぞれのトピックに設けられた「社会文化」コーナーで、日本文化に触れ、さらに自国文化と比較をすることにより異文化理解へとつながるのではないかと考えた。

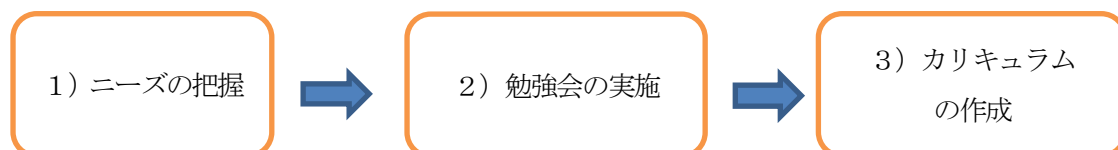
◇『まるごと』は、コミュニケーションのための言語活動を中心に進められるようデザインされているので、口頭を含むコミュニケーション能力の向上が期待できるのではないかと考えた。

2. 実施したパイロットコースについて

ここでは、『まるごと 入門A1』を使用した初級パイロットコースのコースデザインの作成・実践について報告する。

2.1 作成手順

以下のような手順で策定した。



1) ニーズの把握

受講生募集の際の電話問い合わせ、受講生選抜面接時に行う「学習動機アンケート」、コース途中での受講生の要望などから、新たなニーズとして、下記の点があげられた。

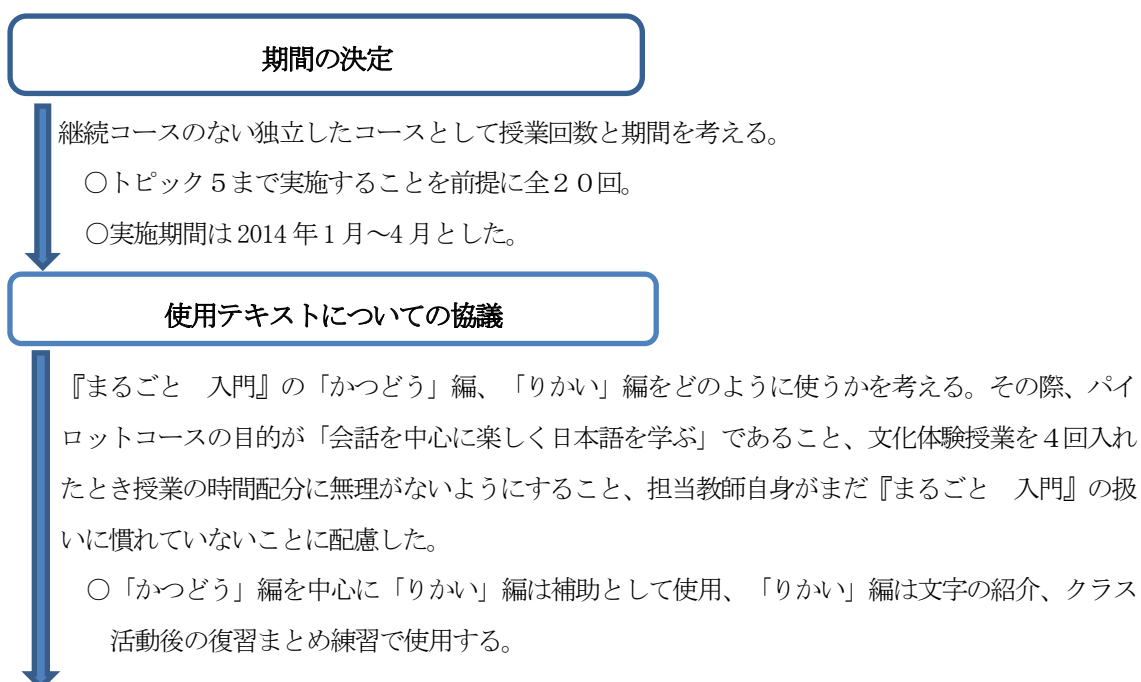
- ◇若年層の受講希望者の存在：現在は成人対象で、18歳以上を条件に受講者を募っているが、毎回、新規受講生募集時に高校生対象のクラスは無いかとの問い合わせがあり、若年層の受講希望が増えて来ている。
- ◇会話時間の増加：数年前からもっと会話、やりとりの時間を多く取って欲しいなどの受講生の要望があった。
- ◇文化へ興味：近年の新規受講生申込み時の志望動機調査によると、日本文化・ポップカルチャーに興味のある受講生が多い。
- ◇午前のコースの開設：主婦などからお茶やお花などの文化的なイベントを入れた短期コースの開講要望がでている。

2) 勉強会の実施

カイロセンターでは、新しいニーズに対応すると同時に、適切な時期に講座を「JFスタンダード」に準拠したコースに移行していくことを検討した。そのためには教師間の理解が第一に必要ということから、2011年からJFスタンダード概要、『まるごと』導入に向けての勉強会を何度か開いた。勉強会は「JFスタンダードとは?」「『まるごと』の特徴は?」「『まるごと』を使ったコース設計は?」などをテーマに、ワークショップ形式で行われた。

3) カリキュラム作成

カリキュラム作成にあたり、担当講師2人と意見交換をしながら以下の流れでカリキュラムを作成した。



学習内容を決める

『まるごと 入門』のどこを学習内容とするか、どんな文化体験にするかを考える。

- 「かつどう」編は1課から10課
- 「りかい」編は、「かつどう」編の補助教材として一部を扱う。詳細は資料1を参照。
- 文化体験は、『まるごと』のトピック、また、カイロで材料が手に入る、既に教材があることを考慮して、書道、のり巻き、茶道、浴衣着付けとした。
- 文化体験を組み込むタイミングと主な内容はそれぞれ以下のようにした。
 - 《書道》文字の導入は、ひらがなの読みができればよい。書きは紹介程度にするが、早い時期に文字に興味を持ってもらうように4回目にやってみる。しかし、この段階ではまだひらがなも覚えていないので、前日にサンプルの単語を提示し、好きな文字を書いてもらうようにする。
 - 《のり巻き》トピック「たべもの」の時期に合わせ実施する。お互いに試食などをして、クラス間の親睦を深める。
 - 《茶道》日本文化の1つとして、重要であると考え実施する。
 - 《浴衣を着る》浴衣を着たいという希望に配慮し、修了式の日茶話会を兼ねて行う。
- 事前に文化体験授業内容の英語版資料を渡し、当日は簡単な説明をしながら行うこととした。

評価方法を考える

具体的な評価方法を考える。

- 教科書『まるごと 入門』に準じた問題を作成することにした。問題は、文字テスト（10の単語カードの中から5つ出して、3つできたら、合格）、QA（教師との）テストの2種類である。
- 『まるごと 入門』の「会話テスト」になかったが、ロールカードを使ったロールプレイテストをやることにした。クラスで楽しくロールプレイができたので、テスト時にも入れ、受講生が達成感を感じられるようにと考え行った。ロールプレイは「かつどう」編の8課（p56～58）の場面から3つ設定した。

2.2 パイロットコースの概要

実施したパイロットコースの概要は以下の通りである。

コース名	『まるごと』パイロットコース
期間	2014年1月19日～4月1日、日/火（3:50pm～5:50pm）
授業時間	120分/1回、週2×10週＝20回 ^{註1}
使用教材	『まるごと 入門』「かつどう」編、「りかい」編
授業内容	1課～10課、文化体験4回、テストとふりかえり ※詳細は資料1を参照

評価方法	ポートフォリオとふりかえりテスト1回
学習者	8名：男性3名、女性5名、：高校生2名、大学生1名、成人5名
修了者	5名：高校生2名、大学生1名、成人2名
担当講師	日本語非母語話者2名、母語話者1名（文化体験授業のみ担当）

注1) 今回は最後に進度調整のため1回プラスして実際には21回となった。

3. パイロットコースの検証

3.1 検証方法

1) 授業活動日誌（引き継ぎノート）の実施

パイロットコースを通して、コースデザインの問題点を探るため授業活動日誌をつけることにした。活動日誌は毎回授業後、担当講師が記録する。内容は、クラス活動が予定通り行われたか、授業でどのような工夫をしたか、良かった点、改善点などをその日の授業を振り返り記録する。記述内容に関しては、資料2を参照。

2) アンケートの実施

コース修了時に独自の『まるごと』コースアンケート調査を行った。資料3を参照。

3.2 検証結果

授業日誌、アンケート結果などから明らかになったことは次の通りである。

1) 授業の流れは1課毎に「かつどう」編⇒「りかい」編で進めるやり方が効率的で効果が上がる

教科書は「かつどう」編を中心に「りかい」編は補助として使用すると計画したが、途中から変更して、「かつどう」編、「りかい」編を1課ずつ交互に使用した。教科書をそのまま使ったほうが、授業がスムーズに流れ、受講生も理解しやすいだろうと担当講師が感じたからである。結果、1課、2課の授業では、教師が「りかい」編のどの部分を利用するかを選定するのに時間がかかったが、3課から順を追って「かつどう」編、「りかい」編を使用することで、授業準備、授業も順調に流れ、時間の配分も上手くできた。また、受講生の「どうして教科書の一部はやらないんだろう」という不安な様子も解消され、受講生から授業が理解しやすくなったという声が挙がった。

2) コースのどこで、文化体験を組み込むか、タイミングが大切である

文化体験は受講生の興味を引き、体験することにより、日本語の知識のみではなく、日本語学習の意欲が高まり、文化の相互理解にも役立つことが分かった。例えば、書道は早い時期に導入することにより、学習者は文字学習への抵抗感が減り、実際にひらがなを書いてみて、アラビア語とは全く違った文字でも、書ける、読めるという達成感を得、文字導入の際にモチベーションが高まった。誇らしげに自分の作品を手に「できた！」という嬉しそうな表情が窺えた。

また、日本の食べ物には馴みがなかった受講生が、実際に自分で作り食べてみることで、自分の国（エジプト、ペルー、ドイツ）の食文化への振り返り、比較などができ、相互理解が進んだ。最終日の茶話

会は自国料理を持参し、レシピ紹介から話が盛り上がり、食文化を通して小さな異文化交流の場にもなった。

清書の前に何度も新聞に練習、「どう？」



初めての書道体験！「面白い！」
それぞれ味のあるいい作品に仕上がりました



好きな物を入れて
巻く。海苔？食べ
られるんですか。
味は・・・？

3) 『まるごと』を使用したことにより、口頭コミュニケーション能力が向上した

20回目の授業で行った受講生のふりかえり会話テスト（ロールプレイ）を見る限り、簡単な表現を使って、家の中の案内ができるようになっていた。従来の『みんなの日本語』受講生は学習40時間の段階では、3課が終わったところで、まだこのやりとりができるには至っていない。テスト後の受講生の「やった！」というガッツポーズから、日本語で会話できたという満足感が窺えた。

4) 『まるごと』コースは高い満足度が提供できる

コース終了時に行ったアンケートでは、授業内容、文化体験、教え方など全般において「とても満足」という結果を得た。今後の『まるごと』を使っでのコース開講に自信が持てた。後日、受講生の父親が来館し、「娘が日本語を続けたいと言っている。次のコースはいつか」との嬉しい問い合わせがあった。文化体験希望においては、同アンケートから、アニメ、将棋、カラオケ・マンガなどにも興味があることが分かったので、今後これらのトピックも、可能な限り、考慮したい。

5) 受講者の主体性を尊重することは学習者の意欲や理解を助ける

文化体験（書道）導入に際し、あらかじめ教師が考えていたサンプル文字、単語ではなく受講生自ら選んだ文字（単語）を書くことに変更した。受講生から好きなひらがなを書きたいとの要望があり、ある受講生は「ゆ」の文字が好きなので、これを書きたいと希望。教師が「ゆめ」という単語を提案、意味を説明、受講生も気に入り、追加文字「め」、単語も覚え、ニッコリとした表情で練習に励んだ。好きな文字を書くことにより、文字に興味湧き、ひいては文字への抵抗がなくなるのではないかとの考えから変更した結果である。

また、ある受講生から、自分は日本語でアニメソングが歌えるようになったので、学習仲間に聞いてもらいたいとの自発的な申し出があったので、最終日の授業に時間を設け、歌ってもらった。受講生自ら興味をもったことを材料にすることで、「授業が受け身」になりがちという問題の解決の1つになると感じた。

6) 文化体験は1日（2時間）しっかりと時間を取ってやる

20回コースとしたが、授業の進度が遅れ、今回のみ1回増やして終了した。進度が遅れた理由は文化体験の日の授業項目がカバーできなかったためである。

4. 本コース実施へ向けて

以上、3. で述べたようにパイロットコースの実践から本コースに向けての示唆を得ることができた。しかし、20回で予定した内容が1回増やさなければならなくなるなど、カリキュラムの見直しは必要である。また、今回のパイロットコースで十分にできなかったことに、評価基準の作成、ポートフォリオの扱い方がある。それらが本コース開始前の準備として優先課題となる。

資料1：授業予定表

回	曜日	課	内容			その他
			かつどう	りかい	文化体験	
1.	1/19 (日)	1課	トピック：にはほんご ：扉写真 1課 こんにちは ①こんにちは (1)(2)(3) ②ひらがな・カタカナ・漢字 (1)(2)(3) Can-do チェック	P. 22、P. 28 ひらがな・ カタカナ紹介(形・発 音) 新聞・雑誌などを見せ る		リエンション(教科 書・CD・受講 生カード・ポトフ利 用ファイル配布)・ Can-do の説明・ メールリストのチェック
2.	1/21 (火)	1課	1課 ひらがな ①ひらがなを よみましょう (1)(2)(3)(4) 注：ひらがなサイト紹介	・この日は理解編の教 科書使用P. 22 のひら がなチャート・カード (大・小) 準備		4 回目 の文化体 験で書きたい文 字を決める(サ ンプル提示)
3.	1/26 (日)	2課	2課 もういちどおねがいしま す ①はい、います ②きいてください ③もういちど おねがいします Can-do チェック	・名前と国がかけるよ うに P. 33～34		
4.	1/28 (火)	1課	②ひらがなを かきましょう (1)(2)(3)		《文化体 験》 ①お習字	2 回目で決めた 好きな字を筆で 書く(新聞紙に 練習、清書)
5.	2/ 2 (日)	3課	わたし ：扉写真 3課 どうぞよろしく ①どうぞ よろしく (1)(2) ②べんきょうちゅうです (1)(2)(3) Can-do チェック	P. 40③-1 (発展会話)		
6.	2/4 (火)	3課	③おしごとは (1)(2) ④めいし (1)(2)	P. 38②-1 宿題：P. 43⑥-2←コピ ーを渡す ひらがなで書ける文 字は使う にはほんご チェック		じこしょうかい ポトフ利用に入れ る
7.	2/ 9 (日)	4課	4課 かぞくは3にんです ：扉 写真 ①かぞくは 3にん です (1)(2)(3) 生活と文化 (P. 40) 家族紹介	P. 44 ①-1, 2		歌：ひとりふ た・・・
8.	2/11 (火)	4課	②おいくつですか (1)(2)(3) Can-do チェック	P. 47②-1 (復習) P. 49③-1 (発展会話) にはほんご チェック		
9.	2/16 (日)	5課	たべもの ：扉写真 5課 なにが すきですか ①なにが すきですか (1)(2)(3) ②コーヒー、のみますか (1)(2)(3)			注：次のクラス で巻きずし体 験、自分で巻き たい物持参 (例：チーズな ど)

			③いつも あさごはんを たべますか(1)			
9.	2/18 (火)	5 課			《文化体験》②巻きすしを作る・日本茶を飲む	③ (3)あさごはんアンケート ← 宿題
10.	2/23 (日)	5 課	2/16 予定の授業をする Can-do チェック			
11.	2/25 (火)	6 課	6 課 どこで たべますか ①きょうは どこで たべますか (1)~(4)	P. 62②-1 (発展会話)		
12.	3/2 (日)	6 課	②ハンバーガーをたべましょう (1)~(4)	P. 36③-1 (復習) にほんご チェック		歌：いっぽんでもにんじん
13.	3/4 (火)	7 課	いえ : 扉写真 7 課 へやが 3つあります ①わたしの いえは せまいです (1)(2)(3) ②エアコンが あります (1)(2)(3)			注：次の授業に ipad, comp. 使用にて持参
14.	3/9 (日)	7 課	③あそびに きてください ・メールの練習・・実際に出す Can-do チェック	・PC を使って実際にメールを書いて教師に出してみる P. 72③-1 (発展会話) P. 75②←宿題：絵もつけて：		ポートフォリオに入れる ←コピーをする ← 宿題 (先生にメールを出す)
15.	3/11 (火)	8 課	8 課 いいへやですね ②いらっしやい/おじゃまします ☆生活と文化・・・お茶の飲み方		《文化体験》③抹茶を点てる・飲む	・カスタジ準備
16.	3/16 (日)	8 課	③ここは わたしの へやです ④ともだちの いえは ここです	P. 76~77①~⑤ にほんご チェック		
17.	3/18 (火)	9 課	せいけつ : 扉写真 9 課 なんじに おきますか ①6 じはんにおきます (1)(2)(3) ②はやいですね (1)(2)			
18.	3/23 (日)	9 課 10 課	③まいにち いそがしいです (1) 10 課 いつが いいですか ①かようびは よる がっこうに いきます(1) Can-do チェック	P. 84①-1, 2 P. 91⑤-2 宿題		宿題 ポートフォリオに入れる
19.	3/25 (火)	10 課	10 課 いつが いいですか 1. Can-do チェック (10分) 2. テスト/はなしあう (60分)	ふりかえり		テストとふりかえり 1 (トピック1~5) (前) 90

			→30分)			分だが60分にす る 注:受講 生のcan-doチェック 集め紙(教師 ふり返り用
20.	3/30 (日)	10課	③おめでとう テストとふりかえり1 (トピック (1)~(5) (後) 3. クラスでは なす			(『まるごと』 コース20かいお めでとう) ・・・好きな 言葉などを書 く・・・
21.	4/1 (火)	10課			《文化体 験》④ 浴 衣を着る	浴衣をきる 修了・茶話会 →記念写真

備考:

1. 上の予定表の○番号は大きい項目 () 番号はアイコン付項目を示すまるごとの番号。
2. 教科書は「かつどう」編使用、「りかい」編は必要に応じてワークブックのような形で使用する。
3. 《文字学習》基本的に読みのみ/・毎回: 5分ぐらいで文字を入れる。 1回に3つの単語ペースで導入
(例: 1回め・・・にほんご・あいさつ・なまえ/ 2回め・・・1回めの単語+あさ・ひる・ばん/3回め・・・2回めの単語+はい・いいえ・すみません/毎回前回の単語に3つずつプラスしていく・・・単語のフラッシュカードを作成)

資料2： 授業活動日誌

『まるごと』コース授業引き継ぎ記録

担当 安島/12-1

4回目	内容(目標 can-do)授業予定項目	主なクラス活動
1月28日 (水) 4/4 理解: 1課	②ひらがなを かきましよう → CXL (1)(2)(3) 《文化体験》①お習字、これはキャンセル。 予定の語彙(3つ)を12-1先生が導入 予定(別紙)	・2回目で決めた好きな字を筆で書く(新聞紙に練習、清書) ・片ガリ、それぞれ使った。筆、硯をきれいにする。
《クラス活動》 ・クラスの初めに予定の単語を(3つ)12-1先生が導入。 ・この時間を予定に入れるのを忘れてしまつたため全体に(10分位、これに変わってしまった。 ・出席者: 5人、①永の字の基本練習。 ②それぞれの字本を見て練習(新聞紙) ③清書。 学生が送った文字 ①ねこ ②ふね ③くち ④ゆめ ⑤ひ		
《良かった点》 ・スタート時は筆に慣れていないとまわっていたから、たぶん感覚がつかぬと練習がおもしろく、何枚も新聞紙を要求、練習。思う方に「よ、これはおれができておれ、満足する方に各自の字をたのびました。		《改善点》 ・片ガリに意外と時間がかかり学生は5:50分に教室を出てしまったが、6:05までかかってしまった。次のクラスも12-1先生がスタートでよかつたが、これは要注意!

☆ その他

・作品はそれぞれ2枚の廊下に見出し出すようにする。
 ・今日の文化体験の写真をX-ILに送る。 } ポートフォリオに入れる予定

資料3 : 『まるごと』 コースアンケート

“marugoto course” evaluation application

1. What do you think about “marugoto” textbook?
a. completely satisfied b. almost satisfied c. quietly satisfied d. not satisfied
2. Which topic did you like Specially? _____
3. Which topic you didn't like? _____
4. What about learning language through “can do” approach?
a. very good b. good c. quite d. bad
5. What about learning language through self-evaluation?
a. very good b. good c. quite d. bad
6. What do you think about the lectures?
a. interesting b. useful c. boring d. time useless e. ええ e. others _____
7. What about the teachers explanation?
a. very easy b. easy c. difficult a little d. very difficult
8. What do you think about cultural events? _____
9. What other cultural events do you want to participate? _____
10. Dose this course match your expectation about learning Japanese?
a. very good b. good c. quite d. bad
11. What does this course needs in your opinion? _____
12. Did you feel stress pressure during this course?
a. very stressed b. stressed a little c. quietly stressed d. not stressed at all
13. Do you want to participate the next course? Yes No
14. I f you want what is suitable for you? 10:00am-12:00 pm 03:50pm-05:50 pm
15. How did you know about this course? _____